

「北京オリンピック 日中意識調査」

【調査結果詳細】

調査概要

調査方法:	インターネットリサーチ						
調査地域:	日本(全国)、中国(北京・上海)						
調査対象:	日本: 20才以上 59才以下の男女(マクロミルモニタ会員) 北京・上海: 20才以上 49才以下の男女(エー・アイ・ピー中国調査パネル)						
有効回答数 (日本):		20代	30代	40代	50代	小計	合計
	男性	64	65	65	64	258	516 サンプル
	女性	64	65	65	64	258	
有効回答数 (北京):		20代	30代	40代	50代	小計	合計
	男性	50	50	50	-	150	300 サンプル
	女性	50	50	50	-	150	
有効回答数 (上海):		20代	30代	40代	50代	小計	合計
	男性	50	50	50	-	150	300 サンプル
	女性	50	50	50	-	150	
調査日時:	2008年7月1日(火)~7月4日(金)						
調査機関:	株式会社マクロミル・株式会社エー・アイ・ピー						

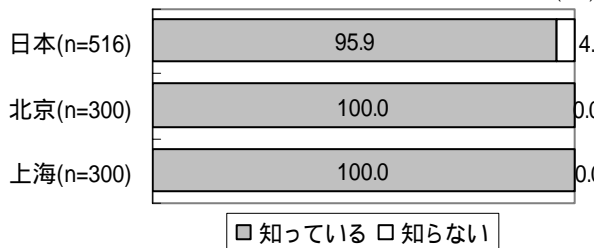
北京オリンピックの開催時期、「知っている人」は日本で73%、北京・上海は100%

全国20~50代の男女、および北京・上海20~40代の男女に、今年のオリンピック開催都市を知っているか尋ねたところ、日本で96%が、北京・上海で100%が「知っている」と回答しました。(図1-1)

また開催時期を知っているか尋ねたところ、日本では73%が、北京・上海ではほぼ100%が「知っている」と回答しています。(図1-2) 開催時期の認知に関して日本の結果を年代別に見ると、20代で「知っている」と回答した人は60%と、他の年代に比べ低い割合となりました。(図1-3)

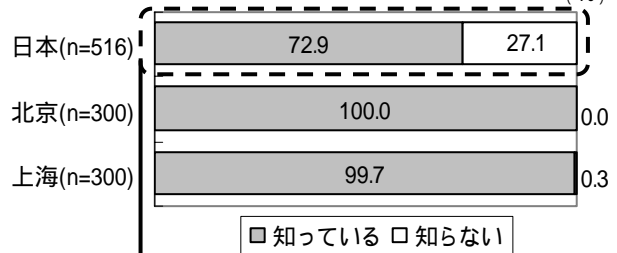
【図1-1】開催都市の認知

Q.あなたは、今年のオリンピック開催都市をご存知ですか。(%)



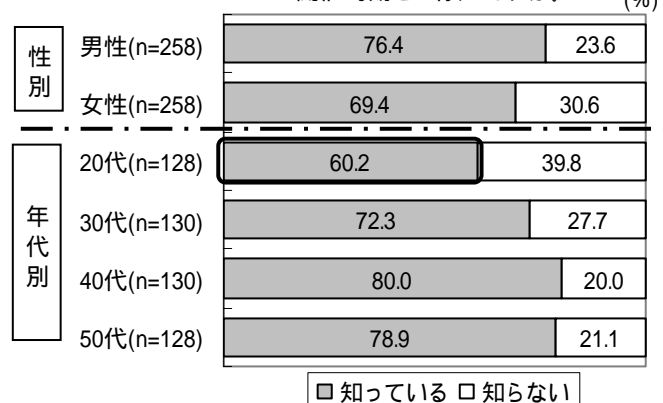
【図1-2】開催時期の認知

Q.あなたは、今年のオリンピック開催時期をご存知ですか。(%)



【図1-3】開催時期の認知(日本)

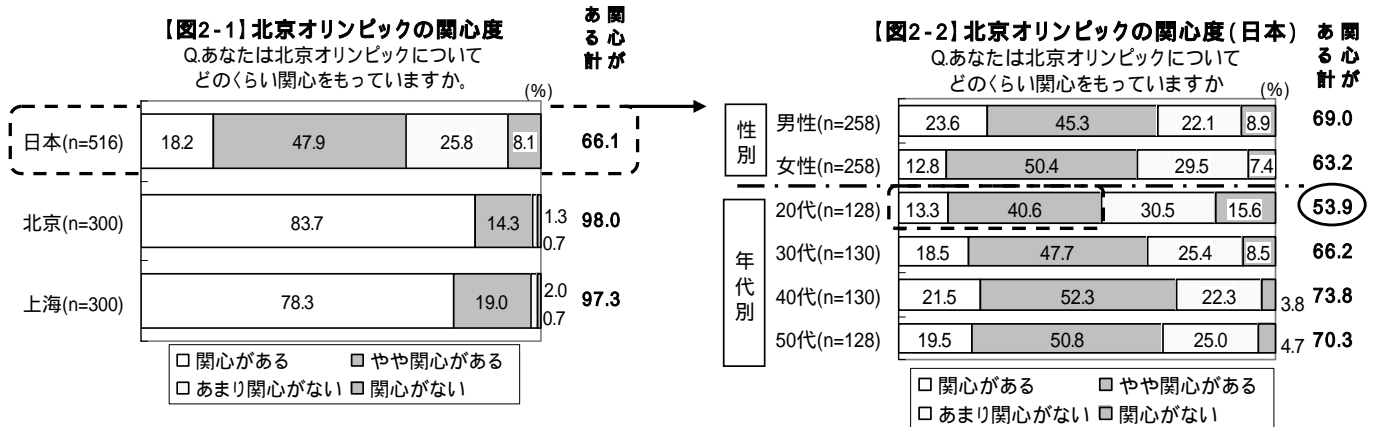
Q.あなたは、今年のオリンピック開催時期をご存知ですか。(%)



北京オリンピックに「関心がある人」、日本で66%、北京・上海でほぼ100%

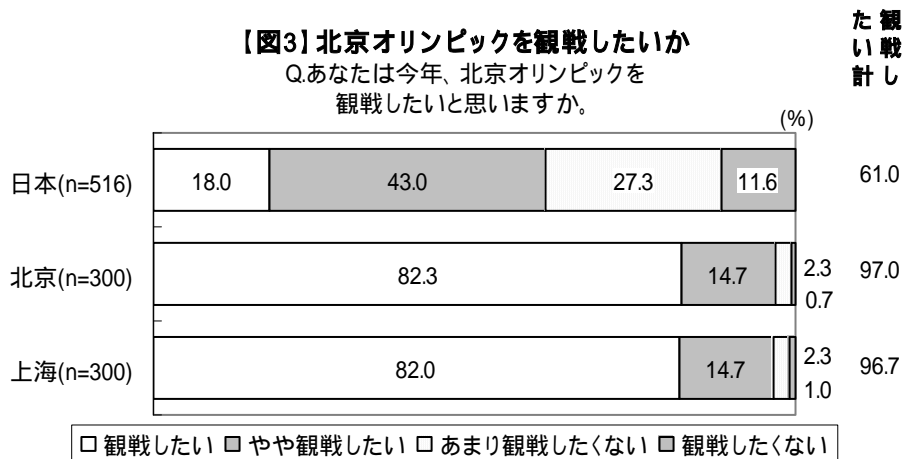
北京オリンピックに対して、どれくらい関心があるか尋ねたところ、日本では「関心がある(関心がある+やや関心がある)」と回答した人は66%となりました。北京では98%、上海では97%が北京オリンピックに「関心がある」と回答しています。(図2-1)

日本の結果を年代別にみると、20代で「関心がある」と回答した人は54%で、30代以上に比べ、関心度は低くなっています。(図2-2)



北京オリンピックを「観戦したい人」は、日本で61%、北京・上海で97%

北京オリンピックを観戦したいと思うか尋ねたところ、日本では「観戦したい(観戦したい+やや観戦したい)」と回答した人が61%となりました。北京・上海では、ともに「観戦したい」と回答した人は97%となっています。(図3)



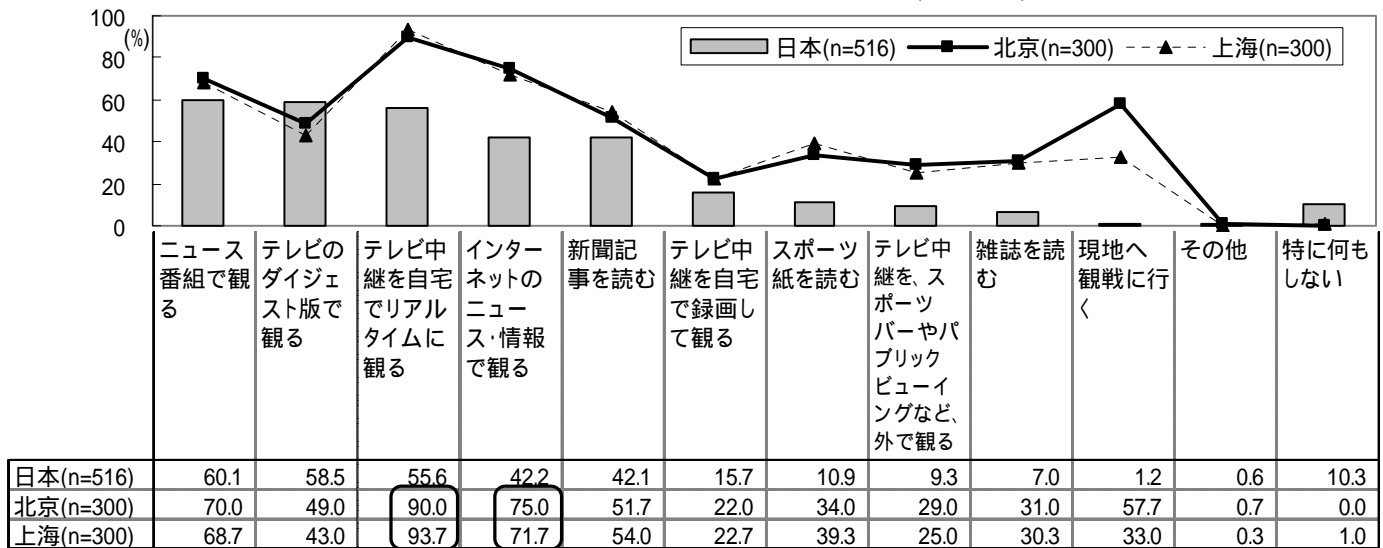
日本人、北京オリンピックの楽しみ方は、「ニュース番組で観る(60%)」が最多

北京オリンピックをどのように楽しむ予定か尋ねたところ、日本では「ニュース番組で観る」が60%で最も多く、次いで「テレビのダイジェスト版で観る」が59%、「テレビ中継を自宅でリアルタイムに観る」が56%となりました。

北京・上海ではいずれも「テレビ中継を自宅でリアルタイムに観る」が9割以上で最も多く、次いで「インターネットのニュース・情報で観る(北京：75%、上海 72%)」、「ニュース番組で観る(北京：70%、上海 69%)」となっています。また、「現地へ観戦に行く」と回答した人は北京で58%、上海で33%となりました。(図4)

【図4】北京オリンピックの楽しみ方

Q.あなたは北京オリンピックをどのように楽しむ(観戦や試合情報をチェックする)予定ですか。あてはまるものをすべてお知らせください。(複数回答)



日本人が観たいオリンピック競技・イベントは

1位「競泳(62%)」、2位「マラソン(49%)」、3位「野球(42%)」

北京オリンピックで観たい競技・イベントについて尋ねたところ、日本では「競泳」が62%で最も多く、次いで「マラソン」が49%、「野球」が42%となっています。

北京・上海ではともに「飛込み」が観たいオリンピック競技・イベントのトップ(北京：76%、上海：77%)となりました。また、「開会式」「陸上競技」「水泳(競泳)」は北京・上海いずれにおいても70%以上となっています。(図5)

【図5】北京オリンピックで観たい競技・イベント<上位10位>

Q.北京オリンピックで、あなたが観たいオリンピック競技・イベントはなんですか。(複数回答)

順位	日本(n=516)	(%)	順位	北京(n=300)	(%)	順位	上海(n=300)	(%)
1	水泳(競泳)	62.2	1	水泳(飛込み)	76.0	1	水泳(飛込み)	77.3
2	マラソン	49.0	2	開会式	73.7	2	陸上競技	74.0
3	野球	41.9	3	陸上競技	72.3	2	水泳(競泳)	74.0
4	陸上競技	41.3	4	水泳(競泳)	70.0	4	開会式	71.7
5	柔道	40.5	5	卓球	65.3	5	卓球	70.7
6	バレーボール	39.1	6	閉会式	64.3	6	閉会式	66.0
7	サッカー	34.5	7	バスケットボール	63.3	7	バドミントン	54.7
8	水泳(シンクロナイズトスイミング)	32.8	8	体操競技(体操)	58.0	8	体操競技(体操)	53.7
9	体操競技(体操)	29.7	9	バドミントン	55.0	9	バスケットボール	53.0
10	開会式	24.2	10	水泳(シンクロナイズトスイミング)	47.0	10	サッカー	50.3

自国の選手にメダル獲得を期待する競技、日本では「競泳(65%)」

北京・上海では「陸上競技(北京:84%、上海:83%)」がトップ

自国のオリンピック選手にメダル獲得を期待する競技を尋ねたところ、日本では「競泳」が65%で最も多く、次いで「柔道」が57%、「マラソン」が49%となりました。

北京・上海ではいずれも「陸上競技(北京:84%、上海:83%)」でメダル獲得を期待する割合が最も高く、次いで「卓球(81%)」「飛込み(80%)」となりました。(図6)

【図6】北京オリンピックで自国のメダルを期待する競技<上位10位>

Q.北京オリンピックで、あなたが自国のオリンピック選手に、メダル獲得を期待する競技はなんですか。(複数回答)

順位	日本(n=516)	(%)	順位	北京(n=300)	(%)	順位	上海(n=300)	(%)
1	水泳(競泳)	65.3	1	陸上競技	84.3	1	陸上競技	83.3
2	柔道	56.6	2	卓球	81.0	2	卓球	80.7
3	マラソン	49.4	3	水泳(飛込み)	79.7	3	水泳(飛込み)	80.3
4	野球	46.1	4	バドミントン	77.7	4	水泳(競泳)	74.7
5	体操競技(体操)	29.7	5	水泳(競泳)	76.7	5	バドミントン	66.7
6	レスリング	26.0	6	体操競技(体操)	73.7	6	体操競技(体操)	66.3
7	水泳(シンクロナイズドスイミング)	25.6	7	ウエイトリフティング	68.0	7	ウエイトリフティング	63.7
8	陸上競技	20.3	8	射撃	67.3	8	射撃	58.3
9	ソフトボール	19.4	9	バレーボール	65.0	8	バレーボール	58.3
10	バレーボール	14.3	10	水泳(シンクロナイズドスイミング)	51.0	10	体操競技(新体操)	45.0

自国のオリンピック選手に期待すること

北京・上海では「ベストプレーを見せてくれること」のほか

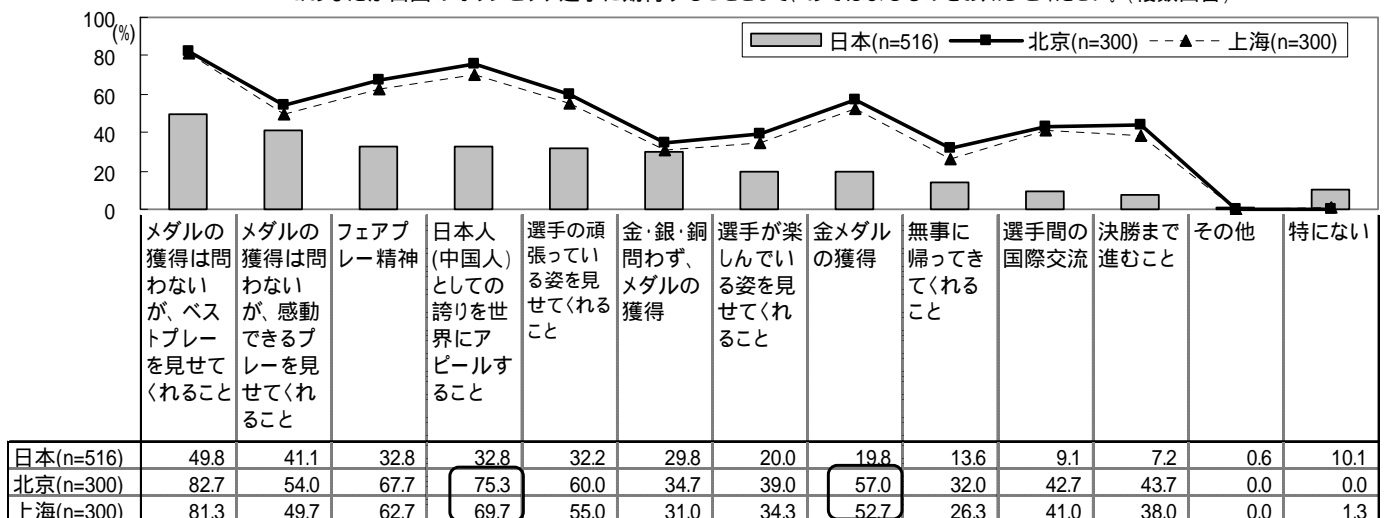
「中国人としての誇りを世界にアピールすること」にも期待大

自国のオリンピック選手に期待することを尋ねたところ、日本では「メダルの獲得は問わないが、ベストプレーを見せてくれること」が50%で最も多く、次いで「メダルの獲得は問わないが、感動できるプレーを見せてくれること」が41%となりました。

北京・上海では、日本と同様「メダルの獲得は問わないが、ベストプレーを見せてくれること(北京:83%、上海:81%)」が最多となっていますが、次いで「中国人としての誇りを世界にアピールすること」も北京が75%、上海が70%と高い割合になっています。また、「金メダルの獲得」も半数以上が期待を寄せている結果となりました。(図7)

【図7】自国のオリンピック選手に期待すること

Q.あなたが自国のオリンピック選手に期待することとして、あてはまるものをお知らせください。(複数回答)



2016年のオリンピック開催地に東京が立候補

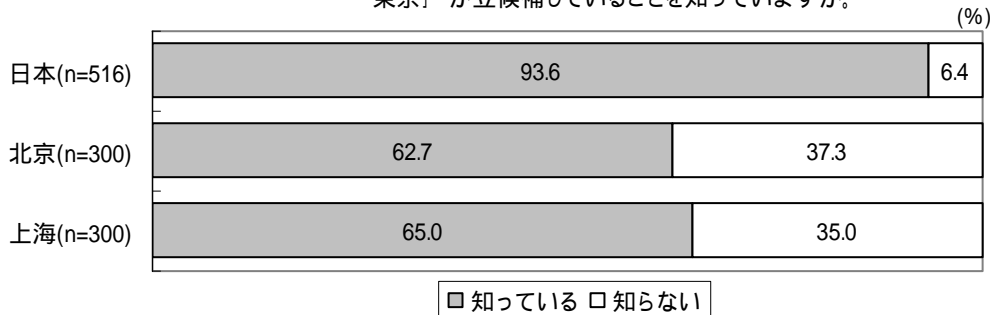
日本で94%、北京・上海でも60%以上が認知

2016年のオリンピック開催地に「東京」が立候補していることを知っているか尋ねたところ、日本では94%が「知っている」と回答しています。

また、北京・上海でも60%以上が「知っている」と回答しています。(図8)

【図8】2016年のオリンピックに「東京」が立候補していることの認知

Q.あなたは、2016年に開催される夏季オリンピックの候補地として「東京」が立候補していることを知っていますか。



北京オリンピック観戦のため購入したもの 日本では「液晶テレビ」が14%でトップ

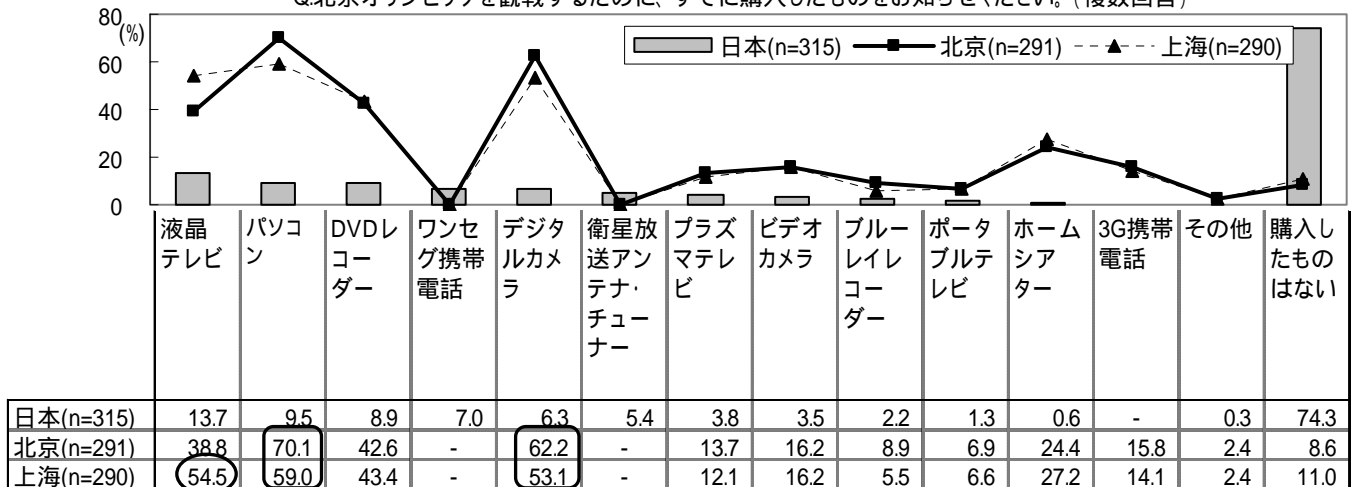
北京では70%、上海では59%で「パソコン」がトップ

北京オリンピックを「観戦したい」と回答した人に、オリンピック観戦のため購入したものを尋ねたところ、日本では「液晶テレビ」が14%で最も多く、次いで「パソコン」が10%、「DVDレコーダー」が9%となりました。

一方、北京・上海では「パソコン(北京:70%、上海:59%)」が最も多く、次いで北京では「デジタルカメラ(62%)」、上海では「液晶テレビ(55%)」「デジタルカメラ(53%)」となっています。(図9)

【図9】北京オリンピックを観戦するためにすでに購入したもの
(ベース:北京オリンピックを観戦したい人)

Q.北京オリンピックを観戦するために、すでに購入したものをお知らせください。(複数回答)



「-」は調査していないことを示す。

日本での北京オリンピック公式スポンサー認知は、「コカ・コーラ」が78%でトップ

北京オリンピックの公式スポンサーとして、知っている企業を日本で尋ねたところ、「コカ・コーラ」が78%でトップとなりました。次いで「ミズノ」が52%、「マクドナルド」が51%でした。(図10)

【図10】北京オリンピックのスポンサー企業認知<上位20位>(日本)

Q.北京オリンピックのスポンサー企業として、ご存知の企業をお知らせください。(複数回答)

順位	日本(n=516)	(%)	順位	日本(n=516)	(%)
1	コカ・コーラ	77.5	11	ナショナル	30.0
2	ミズノ	51.6	12	NTTドコモ	29.7
3	マクドナルド	50.6	13	コダック	26.6
4	パナソニック	49.4	14	日清食品	25.6
5	アシックス	42.4	15	JAL(日本航空)	25.4
6	トヨタ	39.9	16	ANA(全日空)	25.0
7	VISA	37.8	17	Yahoo! JAPAN	24.8
8	アディダス	31.8	18	ジョンソン・エンド・ジョンソン	23.3
9	麒麟ビール	30.6	19	ロッテ	22.9
10	デサント	30.2	20	オメガ	22.1

オリンピック公式スポンサーのイメージ

日本では「国際的」「メジャー」「一流」が上位

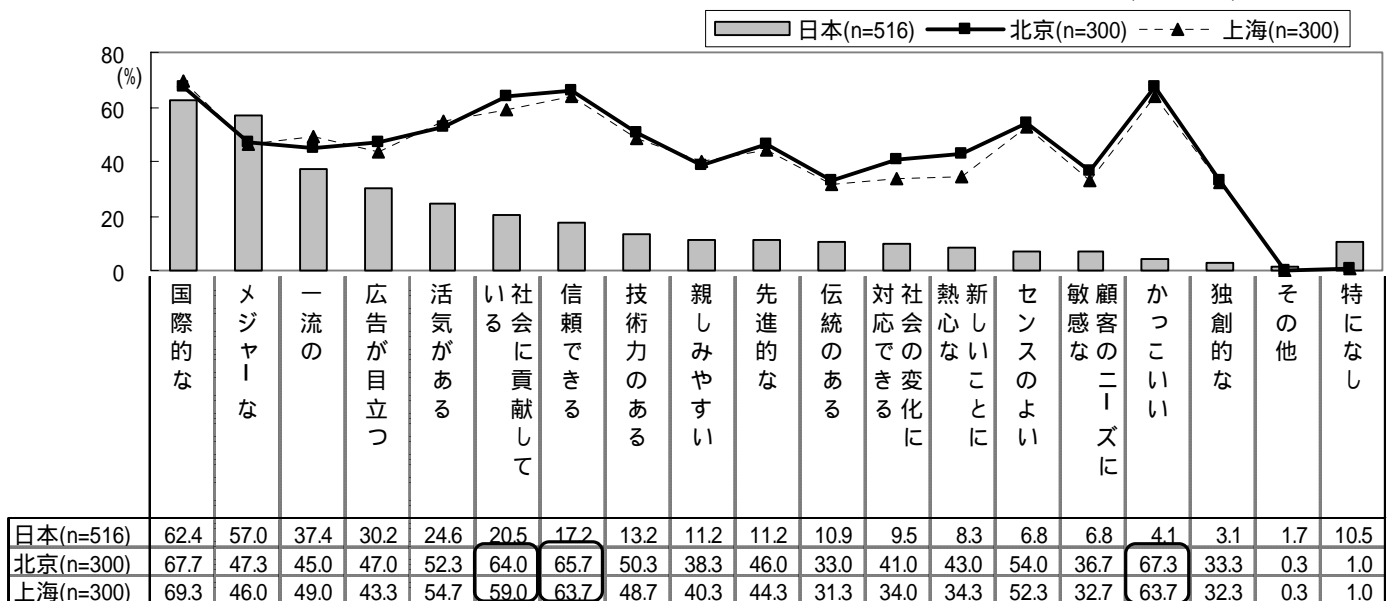
北京・上海では「国際的」「信頼できる」「カッコいい」が上位

オリンピック公式スポンサーの企業イメージについて尋ねたところ、日本では「国際的な」が62%で最も多く、次いで「メジャーな」が57%、「一流の」が37%となりました。

北京・上海でも日本と同様「国際的な」が最も多くなっていますが、ほぼ同率で「信頼できる」「カッコいい」が上位にあがっているほか、「社会に貢献している」というイメージも約6割が回答しています。日本では「信頼できる」は17%、「カッコいい」は4%に留まっており、日本と中国ではオリンピック公式スポンサーに対するイメージに大きな差があるようです。(図11)

【図11】オリンピック公式スポンサーに対するイメージ

Q.オリンピック公式スポンサー企業のイメージとして、あてはまるものをお知らせください。(複数回答)



【 株式会社マクロミル 会社概要 】

株式会社マクロミルは、さまざまな企業の商品やサービス等に対する消費者の声を、インターネットを活用して瞬時に集めるインターネット市場調査会社です。

国内 70 万人を超える独自調査モニタを調査対象として迅速なネットリサーチを行う「QuickMill」のほか、携帯電話を活用したモバイルリサーチ「MobileMill」、世界各国の消費者を対象にした海外市場調査「GlobalMill」など様々なネットリサーチサービスを展開しています。

社名	株式会社マクロミル
本社	東京都港区港南 2-16-1 品川イーストワンタワー11F 〒108-0075
URL	www.macromill.com
設立	2000 年 1 月 31 日
資本金	9 億 3,035 万円 2007 年 12 月末現在
上場取引所	東証一部 (証券コード : 3730)
代表者	代表取締役社長 辻本 秀幸
従業員数	252 名 2008 年 6 月末現在
事業内容	インターネットを活用した市場調査 (ネットリサーチ)

【 株式会社エー・アイ・ピー 会社概要 】

株式会社エー・アイ・ピーは、北・中米、ヨーロッパ、アジア、オセアニアなど世界 30 カ国以上の調査パネルを管理・運営し、国内の顧客向けに「海外専門」のリサーチサービスを提供しています。2005 年 7 月には、インターネットを活用した市場調査を行う株式会社マクロミルのグループ会社となり、同社とともに海外市場における有用なインターネットリサーチサービスを手がけています。

社名	株式会社エー・アイ・ピー
本社	東京都渋谷区東 3 - 9 - 19 ポーラ恵比寿ビル 3F 〒150-0011
URL	www.asia-info.com
設立	1997 年 6 月 18 日
資本金	5 億 62 万 5 千円 2008 年 7 月現在
代表者	代表取締役社長 渡邊 秀文
従業員数	61 名 2008 年 5 月末現在、海外拠点含む
事業内容	インターネットを活用した海外市場調査 インターネットを活用したシステム企画・構築・運用
海外拠点	上海、ソウル、香港

(引用・転載時のクレジット表記のお願い)

本リリースの引用・転載の際は、必ずクレジットを明記していただきますようお願い申し上げます。

< 例 > 「インターネット調査会社のマクロミルとエー・アイ・ピーが共同実施した調査結果によると…」